



臨床美術ジャーナル Vol.9 No.1 (2020) 目次

【巻頭言】

2020 巻頭言

木戸修 (臨床美術学会 学会長・東京藝術大学 名誉教授)

臨床美術学会第11回大会 報告

保坂 遊 (臨床美術学会 理事・東京家政大学 教授)

【基調講演】

創造行為がもたらす奇跡

安藤 榮作 (彫刻家)

【シンポジウム】

人の生(life)を支える美術の役割

保坂 遊 (東京家政大学)

「気になる子」は成長して様々な輝きをもたらす「パステルゾーン」の子どもたち

宮島 祐 (東京家政大学)

Lifeを支える地域包括ケアと臨床美術

渡邊 賀子 (医療法人祐基会帯山中央病院)

－「新たな自分発見」の伴走者として－

大倉 葉子 (臨床美術士)

【パネルディスカッション】

「地域の生(life)を支える臨床美術」

青木 一則 (東北福祉大学) 他



【原著】

<つくり、つくりかえ、つくる>意味生成ケアと場に居ることを可能にする新体制

北澤 晃 (富山福祉短期大学)

札幌市公立保育園における臨床美術の実践と今後の展望

保育者が臨床美術に出会って気づき、変化し、求める事とは

土門 環(臨床美術「ほっかいどう」)

【研究報告】

医療現場での芸術についての一考察

アメリカ医療現場で実践されている芸術活動を一例にして

伊東 留美 (南山大学)

【事例報告】

「子ども向けステップアッププログラムの実施報告」

加藤 力 (芸術造形研究所) 他

小さな段階としての美術活動の効果 (上野の森クリニック待合室での取り組み)

永池 雅子 (合同会社ルネ・アート)他

“感覚享楽型落書き”の精神的効果と臨床美術との共通点

袴田 竜太郎

創造的表現活動が拓く特別な支援を要する子供の資質・能力

保坂 遊 (東京家政大学)他

【特別寄稿】

西日本豪雨災害被災地におけるクリニカルアートを用いたボランティア活動の展開と課題

辻 香乃 (クリニカルアート まびの会)